

令和4年1月期 学長記者懇談会

1. 日時：令和4年1月26日（水） 15：00～16：00

2. 場所：オンライン（teams）

3. 懇談事項等

①琉球大学開学70周年記念事業国際交流シンポジウムの開催について

・・・・資料1

（国際地域創造学部 教授 きな いくえ 喜納 育江）

②数理データサイエンス教育シンポジウムについて

・・・・資料2

（国際地域創造学部 教授 おそぐち こういち 瀬口 浩一
工学部 教授 おかざき たけお 岡崎 威生）

③「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」における特定分野校の選定について

・・・・資料3

（国際地域創造学部 教授 おそぐち こういち 瀬口 浩一）

開学 70 周年記念事業 国際交流シンポジウム概要

1. 目的:

琉球大学は、「Land Grant University」の理念のもと、「地域とともに豊かな未来社会をデザインする大学」及び「アジア・太平洋地域の卓越した教育研究拠点となる大学」を目指し、開学 70 周年を記念して、本学とアジア・太平洋地域等の大学と互いの連携を強化することを目的とする国際交流シンポジウムを開催する。

本シンポジウムでは、環境問題や教育問題など沖縄県が抱える問題、すなわち島嶼地域にとっての共通の課題について議論し、アジア・太平洋地域等の大学が共に解決に向けて取り組むための足がかりとする。オンラインにより開催され、海外及び本学研究者による基調講演を本学ホームページにて公開するレクチャーシリーズ、並びに講演者と本学学生が参加するオンラインシンポジウムで構成される。

海をテーマにした海外及び本学研究者によるグローバルな視点での講演をレクチャーシリーズとして公開し、本学学生、教職員、県民だけでなく、国内外に幅広く発信することで、海外及び本学研究者の知見を共有し、共通課題の解決に繋げる。また、レクチャーシリーズやオンラインシンポジウムを通して、本学や県内の学生、国内外の学生に多様な分野における研究成果について学習する機会を提供し、海の重要性や課題に対する意識向上やグローバルな視野の育成を図る。

2. テーマ: 「島嶼の叡知でつなぐ海～世界に、そして未来に」

Oceans Connected by Island Wisdom, for the World, for the Future

3. 実施期間、スケジュール

【レクチャーシリーズ】2021 年 12 月～2022 年 3 月末

海外講演者: 2021 年 12 月 17 日～2022 年 3 月 31 日

本学講演者: 2022 年 2 月 15 日 (予定) ～2022 年 3 月 31 日

*講演動画: 本学ホームページにて公開 (英語・日本語字幕付き)

【オンラインシンポジウム】2022 年 3 月 11 日 (金)

基調講演者と本学学生とのディスカッション等

*対象者: 本学学生・教職員、一般

*ライブ配信による開催 (一般公開、使用言語: 英語)

4. 基調講演:

【海外講演者】

ピーター・バーキル博士 (Dr. Peter Burkill) [英国・プリマス大学]

リチャード・トンプソン博士 (Dr. Richard Thompson) [英国・プリマス大学]

カヒキナ・デ・シルバ博士 (Dr. Kahikina de Silva) [米国・ハワイ大学マノア校]

キース・カマチョ博士 (Dr. Keith L. Camacho) [米国・カリフォルニア大学ロサンゼルス校]

【琉球大学講演者】

石原 昌英 教授 (国際地域創造学部)

高橋 そよ 准教授 (人文社会学部)

栗原 晴子 教授 (理学部)

宜野座 綾乃 准教授 (島嶼地域科学研究所)

Oceans Connected by Island Wisdom, for the World, for the Future

一般公開
視聴無料

琉球大学では、開学 70 周年を記念し、「Oceans Connected by Island Wisdom, for the World, for the Future」(島嶼の叡知でつなぐ海～世界へ、そして未来へ)をテーマに記念講演を本学ウェブサイトにて開催します。本事業では、基調講演者による講演を録画したビデオを「レクチャーシリーズ」として視聴できます。また、レクチャーシリーズに加え、学生や教職員が参加するオンラインでのシンポジウムも開催を予定しています。ぜひ沖縄の皆さんもオンラインのレクチャーシリーズを視聴後に、シンポジウムにもご参加ください。詳細は、以下の本学ウェブサイトをご覧ください。

レクチャーシリーズ 1：令和3年12月17日～令和4年3月31日

基調講演者

ピーター・バーキル博士、ブリマス大学(英国)

リチャード・トンブソン博士、ブリマス大学(英国)

カヒキナ・テ・シルバ博士、ハワイ大学マノア校(米国)

キース・カマチョ博士、カリフォルニア大学ロサンゼルス校(米国)

レクチャーシリーズ 2：令和4年2月15日(予定)～令和4年3月31日

琉球大学講演者

石原昌英教授(国際地域創造学部)

高橋とよ准教授(人文社会学部)

栗原晴子教授(理学部)

宜野座綾乃准教授(島嶼地域科学研究所)

オンラインシンポジウム：令和4年3月(予定)

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/70th/>



お問合せ：

琉球大学

総合企画戦略部国際連携推進課

Email: kodairi@acs.u-ryukyu.ac.jp



レクチャーシリーズ1

基調講演者



発見への旅

- 微生物から世界的研究機関へ

ピーター・バーキル博士
プリマス大学(英国)
名誉教授



リチャード・トンプソン博士
プリマス大学(英国), 教授

海洋の プラスチックごみ

- 現状と未来への提言



海と文化
- ハワイの文化復興

カヒキナ・デ・シルバ博士
ハワイ大学マノア校(米国)
助教授



キース・カマチヨ博士
カリフォルニア大学
ロサンゼルス校(米国), 教授

母なる海

- 平和と平等

配信場所: 琉球大学公式サイト

配信期間: 令和3年12月17日～令和4年3月31日

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/70th/>



学生、教職員並びに一般の方々もぜひご視聴ください。



※講演動画は英語・日本語の字幕付きです。

The 70th Anniversary of the University of the Ryukyus

~ International Symposium ~

Oceans Connected by Island Wisdom, for the World, for the Future

Open To Public

Streaming is free of charge

To commemorate the 70th anniversary of its founding, the University of the Ryukyus is pleased to announce a series of commemorative lectures on Oceans Connected by Island Wisdom, for the World, for the Future. The series will be held in two parts: the first is series of pre-recorded mini-lectures to be hosted on the university website and the second is a live symposium. We welcome all students, faculty and staff members, as well as the general public to participate. Scan the QR code below for more details.

Lecture Series 1 : Available Online from December 17, 2021 to March 31, 2022

Featured Keynote Speakers

Dr. Peter Burkill, University of Plymouth

Dr. Richard Thompson, University of Plymouth

Dr. Kahikina de Silva, University of Hawai'i, Manoa

Dr. Keith L. Camacho, University of California, Los Angeles

Lecture Series 2 : Available Online from February 15, 2022 (tentative) to March 31, 2022

University of the Ryukyus Speakers

Dr. ISHIHARA Masahide, Faculty of Global and Regional Studies

Dr. TAKAHASHI Soyo, Faculty of Humanities and Social Sciences

Dr. KURIHARA Haruko, Faculty of Science

Dr. GINOZA Ayano, Research Institute for Islands and Sustainability

Live Symposium (Online): March 2022 (TBD)

<https://www.u-ryukyu.ac.jp/70th/>



CONTACT :
International Collaboration Section,
General Planning and Strategy Division
University of the Ryukyus
Email: kodairi@acs.u-ryukyu.ac.jp

LECTURE SERIES 1

Featured Keynote Speakers



Voyages of Discovery

-From Microorganisms to
Worldwide Organizations

Dr. Peter Burkill
Professor Emeritus
University of Plymouth

Dr. Richard Thompson
Professor
University of Plymouth

Marine Litter

- What is happening and
what we can do about it



Culture and Ocean

- Cultural Revitalization in Hawai'i

Dr. Kahikina de Silva
Assistant Professor
University of Hawai'i, Manoa

Dr. Keith L. Camacho
Professor
University of California, Los Angeles

Our Mother Ocean

- Peace and Equality



<https://www.u-ryukyu.ac.jp/70th/>

December 17, 2021 – March 31, 2022



We welcome students, faculty, staff and the general public to celebrate our journey to look to the future.





数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム

～沖縄のデータサイエンスの現状と展望～ を開催しました

琉球大学は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育の全国展開の推進」事業として、平成 31 年度から 3 年間にわたり、県内高等教育機関の数理・データサイエンス教育の普及展開に取り組んでまいりました。

今回、事業最終年度にあたって、事業の総括と今後の沖縄県のデータサイエンスの現状を考え、地域における実践的教育モデル構築のヒントを探るため、令和 3 年 1 2 月 1 8 日（土）に「数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム～沖縄のデータサイエンスの現状と展望～」を開催しました。

シンポジウムでは、基調講演として、文部科学省高等教育局専門教育課 木谷(きや) 慎一(しんいち)様に、「数理・データサイエンス・AI 教育を取り巻く最近の状況について」と題し、AI 戦略 2019 をはじめとする政府の戦略について講演頂きました。

また、パネルディスカッションでは、「沖縄でデータサイエンスのこれからを考えよう」と題し、オリオンビール株式会社 IT ソリューション部長 溝口(みぞぐち)義純(よしずみ)様、文部科学省高等教育局専門教育課 木谷(きや) 慎一(しんいち)様、沖縄県商工労働部情報産業振興課 兼島(かねしま)篤貴(あつき)様、九州大学数理・データサイエンス教育研究センター長 内田(うちだ)誠一(せいいち)様、琉球大学国際地域創造学部 4 年生上間(うえま)美優(みゆ)さん、琉球大学理事 井上(いのうえ)章二(しょうじ) 理事に参加頂き、それぞれの立場から活発な意見交換がなされ、今後の沖縄県内での数理データサイエンス教育の発展に向け多くの有意義な提案を頂きました。

資料

1. シンポジウムフライヤー
2. 未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・DS 教育普及展開事業報告
3. シンポジウム報告

シンポジウムの様子をアーカイブ配信しております。

http://www.ged.skr.u-ryukyu.ac.jp/work/data_science/topics

数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム ～沖縄のデータサイエンスの現状と展望～

琉球大学は、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」事業として、県内高等教育機関の数理・データサイエンス教育の普及展開に取り組んでいます。

今回、数理・データサイエンス・AI教育の政府の取組み紹介や本学の事例報告、さらに、パネルディスカッションでは、沖縄県のデータサイエンスの現状を考え、地域における実践的教育モデル構築のヒントを探ります。

..... プログラム

開会挨拶 井上 章二（琉球大学理事）

基調講演 「数理・データサイエンス・AI教育を取り巻く最近の状況について」
木谷 慎一（文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐）

事業報告 「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・データサイエンス教育普及展開事業」
瀬口 浩一（琉球大学国際地域創造学部教授）
山田 健太（琉球大学国際地域創造学部准教授）
岡崎 威生（琉球大学工学部教授）

パネルディスカッション

「沖縄でデータサイエンスのこれからを考えよう」

ファシリテーター 岡崎 威生（琉球大学工学部教授）

【パネリスト】

（産業界） オリオンビール株式会社 ITソリューション部長 溝口 義純

（官公庁） 文部科学省 高等教育局専門教育課課長補佐 木谷 慎一

沖縄県商工労働部 情報産業振興課情報・金融産業振興班長 兼島 篤貴

（大 学） 九州大学 数理・データサイエンス教育研究センター長 内田 誠一

琉球大学 国際地域創造学部 4年生 上間 美優

琉球大学 教育・学生支援担当理事 井上 章二

閉会挨拶 西田 睦（琉球大学長）

共催：おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会

後援：沖縄県、大学コンソーシアム沖縄、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム九州・沖縄ブロック

日時

2021年 **12/18(土)**
10:00～12:30

定員

会場先着 80名
Zoomウェビナー
定員になり次第、受付終了

無料
事前申込制

会場

沖縄県立博物館・美術館 3階講堂
(沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号)

申込み期限

12/16 (木) 13時

対象

沖縄県内教育関係者、企業関係者、官公庁、
学生、一般の方

<https://forms.office.com/r/iCQHwLx51F>



事業報告・本学の取り組み

「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理
・データサイエンス教育普及展開事業」

琉球大学

データサイエンス取組の経緯と事業の概要

取組の経緯

以前より各学部の
講義・演習で実施
(バラバラに)

データサイエンス人材
育成の全学的強化に向け、
学内の課題整理・答申

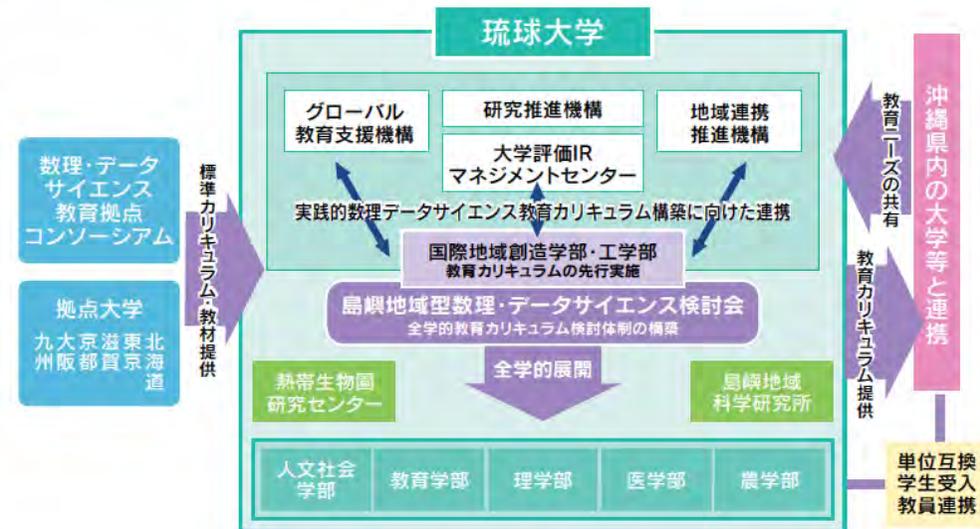
教員ポスト戦略的再配分
データサイエンスポスト
を2学部に分

協力校として
地域での普及展開

事業の実現に向け、数学及び統計学、その知識を応用した実証分析やデータ解析に精通する教員（国際地域創造学部や工学部をはじめ、様々な学内組織に属する教員）を中心にカリキュラム実施を担うとともに、全学的展開を進めるにあたって学内に「島嶼地域型数理・データサイエンス検討会（仮称）」を設置し、教育研究組織のみならず、全学的運営組織（グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構）及び大学評価IRマネジメントセンター等との学内連携により、様々な領域での教育カリキュラムの充実を図る。また、県内大学等と連携しニーズに根差した教育プログラムの充実を図るとともに、一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センターとも連携し産業課題ニーズの教育プログラムへの反映を行い、全県的な産学官連携体制のもと推進する。

事業の概要

組織（プロジェクト）の目的と構成



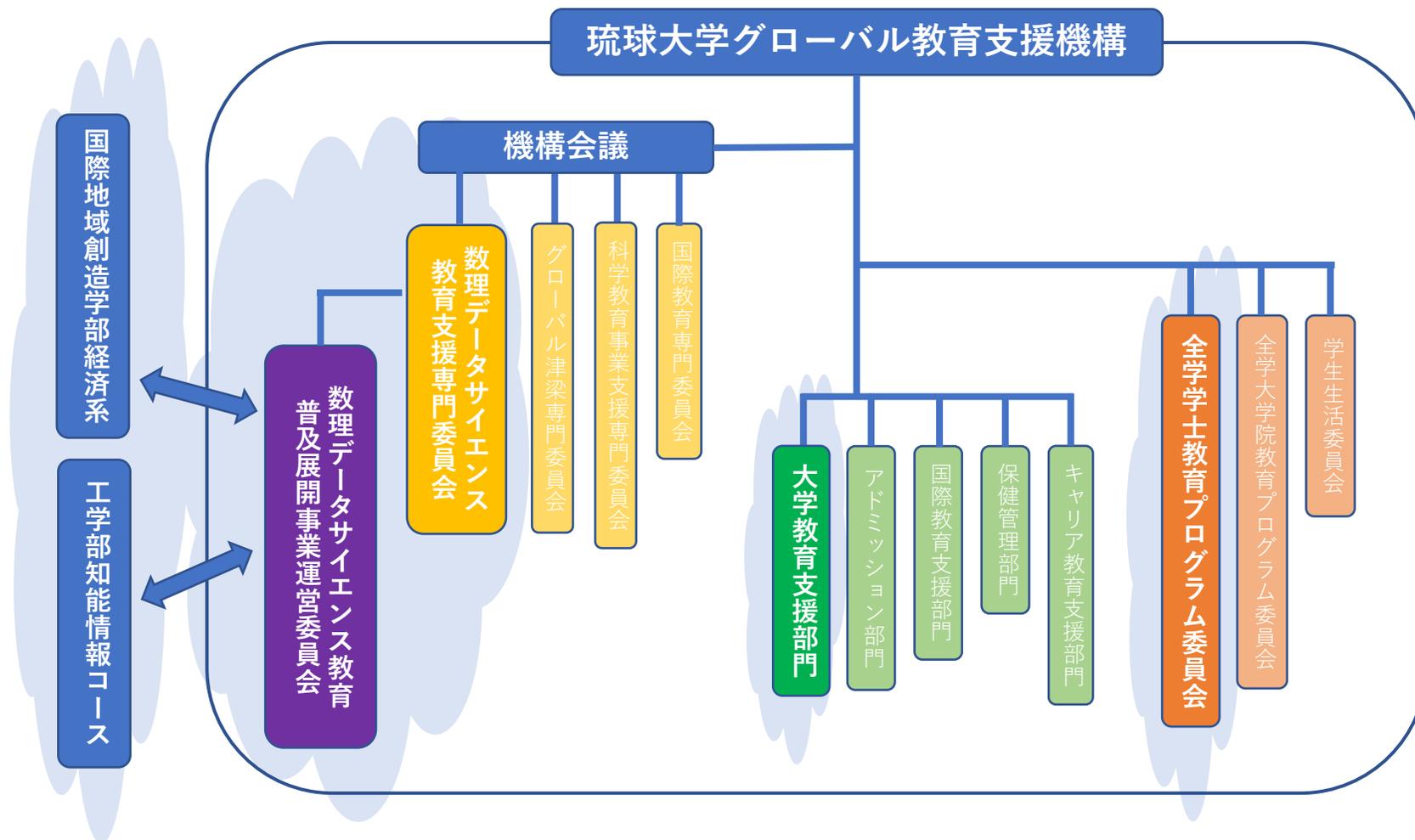
取組概要

◆ 拠点大学の開発する標準カリキュラム及びオンライン教材を活用しつつ、本学の置かれた島嶼地域の地理的特性を踏まえ、地域課題解決・新産業創出を見据えた実践的かつ特色ある数理・データサイエンス教育を実施し、高度の専門知識、応用能力、課題解決能力を有する人材、地域社会や国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成する

ため、国際地域創造学部及び工学部を中核とし、グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構、大学評価IRマネジメントセンターと連携した実践的教育モデルを構築する。さらに、沖縄県内の高等教育機関と連携し、「島嶼地域型数理・データサイエンス教育モデル」の県内機関への展開を推進する。

KPI	2019年度	2020年度	2021年度以降	波及効果
全体計画	<ul style="list-style-type: none"> 拠点校、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムとの連携 島嶼地域型データサイエンス教育カリキュラム構築 	<ul style="list-style-type: none"> 教育カリキュラムの全学的展開 大学コンソーシアム沖縄との連携 	<ul style="list-style-type: none"> 島嶼地域型数理データサイエンス教育の普及展開 	<p>◆ 地域における数理データサイエンス教育拠点構築へ</p> <p>◆ 小・中・高との連携による一貫型データサイエンス人材育成システムの構築 <small>※JST事業との連携</small></p> <p>◆ データサイエンスによる地域課題解決・新産業創出を担う人材の輩出 <small>※社会人向け人材育成システムとの連携</small></p>
島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数 (自大学) 300名	<ul style="list-style-type: none"> 拠点校連携(標準カリキュラム導入等) 国際地域創造学部(H30改組)による先行導入 島嶼地域型数理・データサイエンス検討会(仮称)の立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 島嶼地域型数理・データサイエンス教育カリキュラム全学的展開 カリキュラム内容の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムへの反映 同コンソーシアムと連携した展開 	
普及連携機関数(大学コンソーシアム沖縄との連携) 8機関	<ul style="list-style-type: none"> 島嶼型データサイエンス協議会(仮称)の立ち上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 各機関における数理・データサイエンス教育の実態・ニーズ調査 個別プログラムの構築 コンソーシアムへの協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄県内での教育プログラム普及 連携機関との協力によるプログラム検証・充実の推進 	
島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数 (連携大学) 500名		<ul style="list-style-type: none"> 各機関における教育プログラム提供体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 島嶼地域型数理・データサイエンス教育プログラムの提供 	
普及連携機関との単位互換制度等の構築 3件		<ul style="list-style-type: none"> 県内外の大学との単位互換に関する大学(部局)間協定締結に向けた準備 	<ul style="list-style-type: none"> 普及連携機関の教育ニーズ・カリキュラムを踏まえた単位互換制度構築 教育カリキュラムの展開 	

琉球大学での数理DS教育推進体制



これまでの成果（令和4年1月時点）

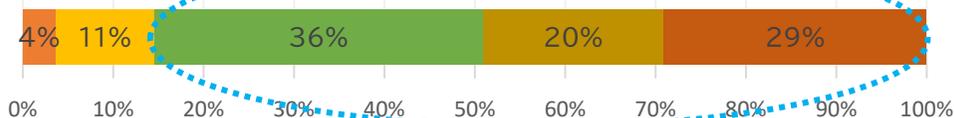
- ◆ 「琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針（令和2年5月19日策定）」に基づき全学的な数理・データサイエンス教育を実施。
- ◆ 本学における先導的役割を担う、国際地域創造学部において「データサイエンス入門」から「データサイエンスに必要な数学の基礎」、「Pythonによるプログラミング」までを体系的に学修することのできる「データサイエンティスト養成履修カリキュラム」を開設（R3.8 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）認定）。全学部の学生が履修可能なプログラムとなっている。
- ◆ 県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし「おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会」を創設。国公私立および高専、大学院大学で構成されており、教育モデルの普及展開の核となる協働体制を構築。
- ◆ モデルカリキュラム（リテラシーレベル）に対応した動画コンテンツを作成。県内高等教育機関へ動画コンテンツを提供するとともに、各大学のニーズに応じたカリキュラム構築を支援。

数理・データサイエンス人材育成事業 に関するニーズ調査（一部抜粋）

調査方法

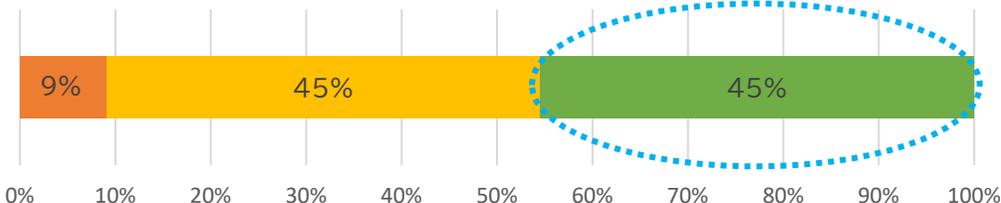
目的：産業課題ニーズの把握及び、それらの教育プログラムへの反映を実施する。
調査対象：過去5年間のうち本学より2人以上の学生が就職した民間企業405社及び本学教員と関わりのある県内外企業
調査方法：405社（県内194社、県外211社）※オンライン及び郵送（メールによる依頼314社、郵送91社）
実施期間：令和2（2020）年9月～同年11月
回答数：55社（県内37社、県外18社）

Q1. 政府が令和元年6月に発表した「AI戦略2019」について
知っていますか。



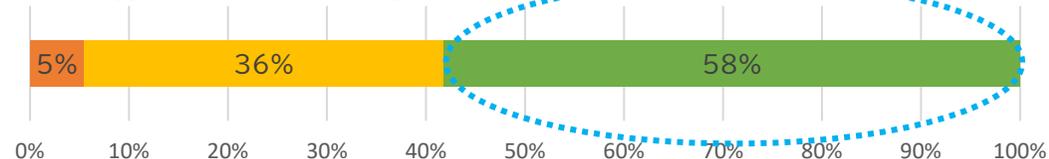
- 1. 内容を含めよく知っている
- 2. ある程度内容まで知っている
- 3. ことばは知っているが詳しい内容までは知らない
- 4. 聞いたことはある
- 5. なじみがなく何のことかわからない

Q4. 貴社では、今後3年間で、ビッグデータ等を収集・分析し、
ビジネスに活用できる人材を採用・増員したいと考えていますか。



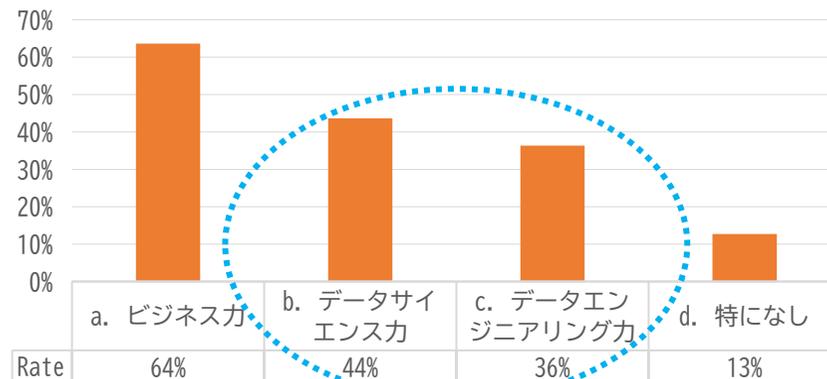
- いいえ
- どちらともいえない
- はい

Q2. 貴社にとって、ビッグデータ等を収集・分析し、ビジネスに
活用できる人材は必要だと思いますか。



- いいえ
- どちらともいえない
- はい

Q5. 貴社では、ビッグデータ等を収集・分析し、ビジネスに活用
できる人材を採用・増員する際、どういった能力を重視しますか。
(複数選択可)



琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針に基づく科目開設状況

- ◆ 琉球大学は「普遍的価値を身に付けた 21 世紀型市民として、地域社会及び国際社会の発展に寄与できる人材」の育成を掲げている。琉球大学学位授与の方針では、この人材育成の目的を達成するため、**琉大グローバルシティズン・カリキュラム URGCC の学習教育目標を定め、各教育課程でこれらを身に付けた者に学位を授与することとしている。**
- ◆ URGCC 学習教育目標を踏まえつつ、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成を推進するため、**数理データサイエンス教育に関する基本方針を次のように定めた。**

1. 琉球大学の全ての学部学生は、「各教育課程の専門性に活かすことを目的に、データを分析し、内在する情報や知識を読み取った上で、論理的思考によって解釈し議論する」内容を有する科目群を履修し、卒業までに数理的思考力とデータ分析・活用能力を身に付けることとする。
2. 各学部は、それぞれの学部の特性を踏まえ、上記内容を提供できるよう教育課程を整備する。なお、共通教育等科目と専門教育科目のいずれの科目で対応するかは問わない。
3. 上記内容に加えて、各学部は必要に応じて発展的内容を提供できるよう努める。
4. 学生が個人所有する情報端末を積極的に活用した授業を推進する。そのために必要な学習環境の整備に努める。

- ◆ **開設科目数182科目**（文系学部34科目、理学系学部57科目、工学系学部33科目、医学系学部6科目、農学系学部52科目）。

国際地域創造学部データサイエンティスト養成履修カリキュラム

カリキュラムの背景と目標

文部科学省「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」協力校に本学が選定され、国際地域創造学部で事業を先行実施することに伴い、開設されたのが国際地域創造学部データサイエンティスト養成履修カリキュラムです。

今後、数理・データサイエンスの基礎知識は、専門分野に限らず、全国すべての大学の学生が身に付ける素養として位置付けられる方向に進んでいます。本カリキュラムは、データサイエンス(データを処理し、高度なデータ解析を行う分野)の初級・中級程度の能力を養い、養った力を様々な分野における「価値創造」につなげることでできる人材を養成することを目指します。

受講対象の学生

- 国際地域創造学部の在学生(プログラム配属後は全プログラム所属学生)
- 国際地域創造学部以外の他学部生も受講可

修了認定証の発行

必要な科目を履修し、単位を修得した者にはデータサイエンティストの素養を国際地域創造学部が証明する「認定証」を交付します。認定証は、プログラムの選択に関係なく発行します。

認定証交付に必要な修得単位数は、12単位以上です(令和3(2021)年度入学生の場合)。

令和2(2020)年度以前入学生(一部改訂)「データサイエンス上級」は、「データサイエンスのためのPython プログラミング」の単位を修得することで認定します(単位の読み替え可)。「データサイエンス概論」の履修は可能ですが、認定証交付の条件には該当しません。従来どおり、認定証交付に必要な修得単位数は10 単位以上です。

科目の開講時期

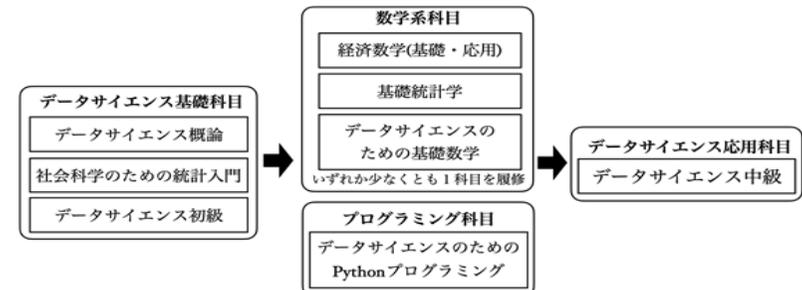
分野	1年次	2年次	3年次
数理	データサイエンスのための基礎数学☆ 《隔年》	経済数学 (基礎・応用)☆ 《Q1及びQ2》	
データサイエンス	社会科学のための統計入門※ 《Q1又はQ3》		データサイエンス 中級※《隔年》
	基礎統計学☆ 《Q2又はQ4》		
	データサイエンス概論※ データサイエンス初級※ 《前期/後期(夜間・隔年)》	データサイエンスのためのPythonプログラミング※《隔年》	

(備考)

- ※ 必ず履修しなければならない科目
- ☆ いずれか1科目以上を選択し、必ず履修しなければならない科目
- 上記表内の年次は、「その年次を含む、より高年次の学生まで履修可能」であることを示します。
- Q1・Q2・Q3・Q4は、各クォーターを示します。
- 科目の詳細は、時間割担当表とシラバスを参照してください。

科目履修の流れ(モデルケース)

モデルケースとして、次のような科目の履修をオススメします。数学に苦手意識を持つ皆さんは、数学を選択しない履修も可能です。この機会に数学への苦手意識を克服したい皆さんは「データサイエンスのための基礎数学」や「経済数学」にチャレンジしてみてください。



沖縄県内数理DS教育普及体制

おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会

県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし「おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会」を創設。

【目的】

沖縄県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進。

【活動内容】

連絡会は数理・データサイエンス教育に関する以下の事項について、活動を行う。

- (1) 情報共有
 - ① 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの検討内容及び成果物等について
 - ② 実践事例や授業コンテンツ等について
 - ③ カリキュラム設計について
 - ④ FD 活動について
- (2) 前項に掲げるものの他、数理・データサイエンス教育推進に関すること。

【会員】

連絡会は、連絡会の目的や活動に賛同する沖縄県内高等教育機関に所属する個人及び団体をもって構成

団体会員 8 機関

沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学、沖縄大学、沖縄女子短期大学、沖縄国際大学
沖縄県立芸術大学、名桜大学、沖縄県立看護大学

※ 沖縄工業高等専門学校は機構として推進。沖縄科学技術大学院大学はオブザーバー参加

個人会員 50 名

パネルディスカッションについて

- テーマ

沖縄でデータサイエンスのこれからを考えよう（ファシリテーター 工学部 岡崎威生教授）

- パネリスト（敬称略）

オリオンビール株式会社ITソリューション部長 溝口義純、文部科学省高等教育局専門教育課課長補佐 木谷慎一、沖縄県商工労働部情報産業振興課情報・金融産業振興班長 兼島篤貴、九州大学数理・データサイエンス教育研究センター長 内田誠一、琉球大学国際地域創造学部4年生 上間美優、琉球大学教育・学生支援担当理事 井上章二

- パネルディスカッションの狙い

- 【背景とニーズ】

- ✓ 島嶼地域の特異性（物理空間ハンディの払拭）
- ✓ 新しい社会構造への変革 Society5.0
- ✓ データ・サイエンティストの不足
- ✓ 学問分野と関係なくデータサイエンス素養が必要
- ✓ データ・サイエンスの果たす研究推進の役割

- 【論点】

- ✓ データサイエンス人材の中でも沖縄県で“キー”となるターゲットは？
- ✓ この人材養成をどんな枠組みで推進できるか？

各パネラーの発表概要

<p>琉球大学 井上理事</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大学運営におけるDSの活用～ IR（インスティテューショナル・リサーチ）を含めて～ ✓ 数理データサイエンス手法を取り入れた研究の推進 ✓ 教学IR（カリキュラム評価等）への活用。大学運営IR（人事、財務、施設）への活用
<p>琉球大学 上間美優</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 基礎演習（必修科目）への数理データサイエンス教育を導入し、誰でも一度はデータサイエンスに触れられる機会を。その後の専門科目への関心に繋げる。 ✓ 産学連携の機会を増加し、企業のデータ活用の実態を知り、実践的な学びへ
<p>文部科学省 木谷課長補佐</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 企業が必要とする〇〇人材とはどのようなスキルを求めているのか。 ✓ 大学はどのような教育をすれば、企業が必要とする〇〇人材を育成できるのか。 ✓ 沖縄県内の全ての大学等が数理・データサイエンス・AI教育を実践するためには。
<p>沖縄県 兼島班長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 沖縄が目指すSociety5.0の社会像（地理的不利性克服、労働生産性向上等） ✓ 次期沖縄振興計画におけるデジタル化施策（DXのうち“X”が重要） ✓ 沖縄の産業に求められるデジタル人材のイメージ（IT産業、非IT産業）
<p>オリオンビール 溝口部長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ オリオンビールにおけるデータ活用の取組と得られた課題（データ収集、加工、分析） ✓ 大学に期待すること（沖縄県内のデータ収集での支援、データサイエンスに関する社会人のリカレント教育など）
<p>九州大学 内田センター長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 九州大学の取組事例（オープンサイエンス オープンエデュケーション そして オープンマインド） ✓ 誰もが受けられるDS講義（学び直し、集中講義、文系理系問わず、企業受入れ） ✓ 全学体制による実践（教員配置、教材共有） ✓ 産業界と連携したデータ解析課題をエキスパート教育として実践

参加者アンケート概要

- 実施期間

令和3年12月18日シンポジウム終了後から12月31日まで

- 実施方法

シンポジウム会場参加者には用紙配布、シンポジウム終了後、すべての参加者へメールでアンケートフォーム（Microsoft forms）を案内

- 回答総数

61件（会場23名、オンライン回答数38名）

- 結果概要

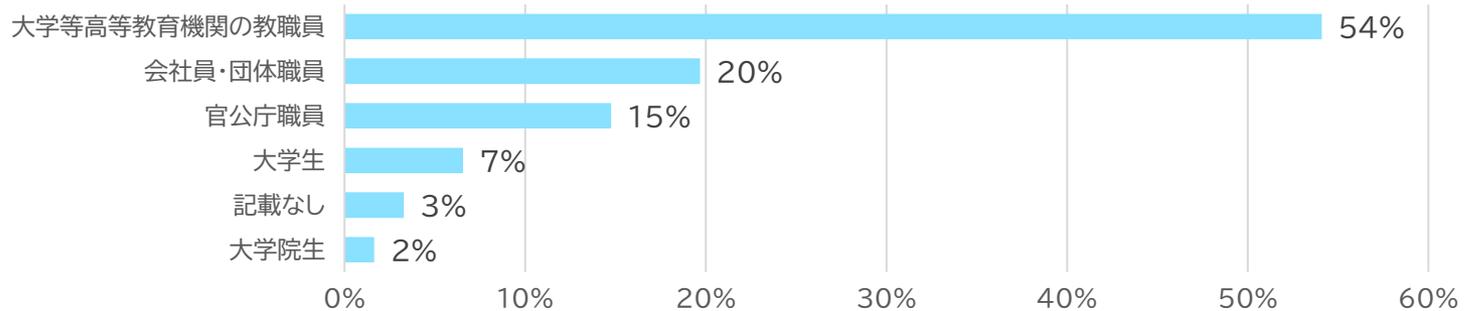
✓回答者61名全員から、「非常によかった」「よかった」という意見をいただいた。

✓参加者は県内在住者が84%を占め、職業は「大学等高等教育機関の教職員」が54%であった。

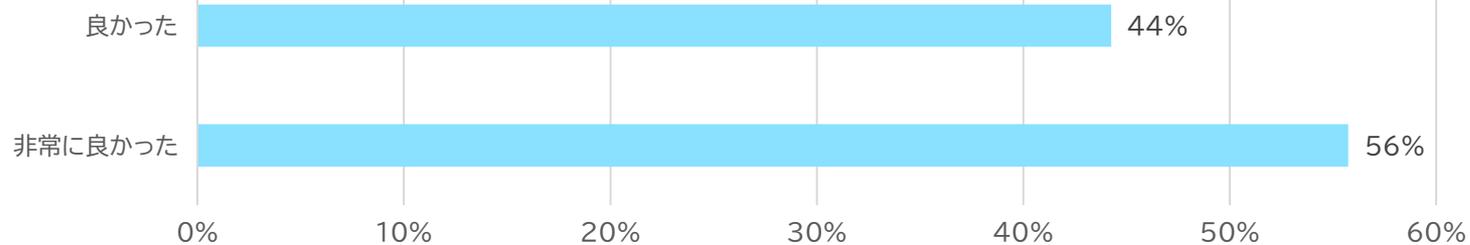
✓今後のデータサイエンス教育に期待することや感想（自由記述）では、民間企業、行政、大学、学生というさまざまな立場から現状や課題を紹介したことに対して好意的な感想や、今後の取組みに期待する感想が多く寄せられた。

アンケート抜粋

Q3 職種区分を教えてください

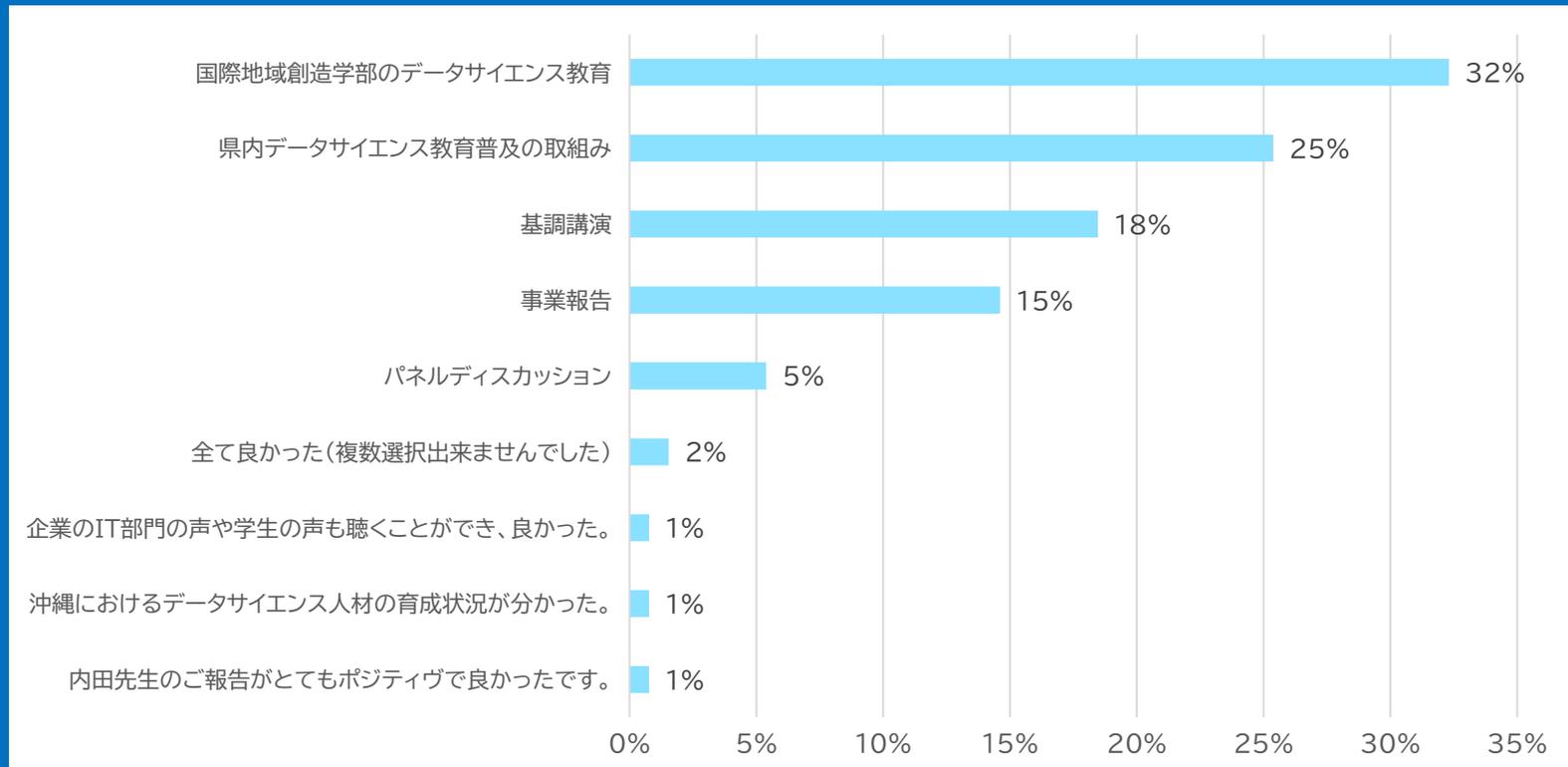


Q5 今回のシンポジウムはいかがでしたか(1つのみ)



アンケート抜粋

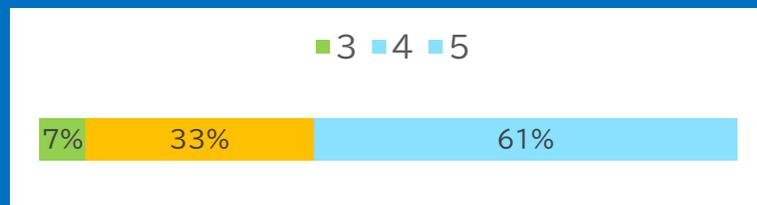
Q6 今回のプログラムでよかったことは何ですか(いくつでも)



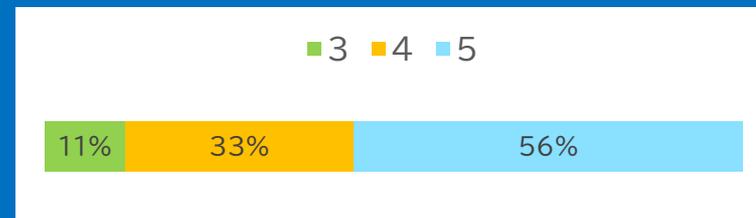
アンケート抜粋

Q7 3年間の取組みの成果や効果について、5点満点で評価してください

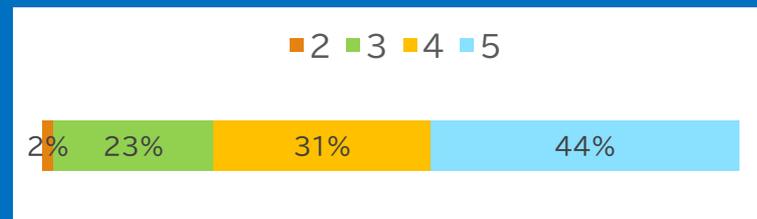
「データサイエンティスト養成履修カリキュラム」導入



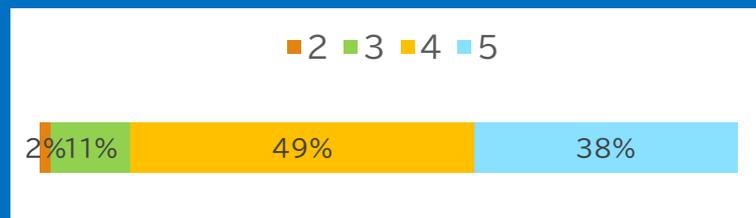
動画コンテンツの提供



全学履修体制



おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会の活動



アンケート自由記述欄

1. パネルディスカッションで、印象に残ったことやキーワードがあれば教えてください

- ✓ 大学教育内容の大きな変化
- ✓ データサイエンスは理系というイメージでしたが、文系の国際地域創造学部で養成履修カリキュラムにされていることが意外で印象に残っています。また数学に苦手意識を持つ学生に対しても、柔軟に選択できるようにされている点も良いカリキュラムだと思いました。
- ✓ 産業・企業と大学の連携の強化。企業課題を大学と一緒にソリューションを見つける中で数理DS人材教育を考える。
- ✓ 沖縄の産業発展には、デジタル人材の育成、特にデータ利活用人材（すべての社員）の育成が大きな課題であることがわかった。
- ✓ データサイエンスの普及について、すべての人がデータの活用をできるわけではないが、データに対してのリテラシーは持つようにするという点。
- ✓ Dではなく、"X"が重要。Dが目的化するとダメ。
- ✓ 「IT人材は必要だが、社員を大学に入学させ学ばせるわけにもいかない。」との発言が印象に残りました。県内企業が社内教育として社員にデータサイエンス等を学ばせるための教育パッケージ大学で用意し、活用してもらえよう企業等にアピールしてはどうかと思いました。

アンケート自由記述欄

2. 今後のデータサイエンス教育に期待することなど、自由にお書きください。

- ✓ 大学院教育（科目履修等を含む）での展開を期待しています
- ✓ "教育を通じて、データの中から課題を見つけ、解決する「考える力」を備えた人材を県内から多く輩出することを期待します。
- ✓ 大学学生へのDS教育だけでなく、社会人向けの教育（リカレント教育）でもDS人材の育成をお願いしたい。
- ✓ 産学官連携での沖縄県全体の人材育成や企業採用スキームの構築を期待したいです。
- ✓ データを取捨選択し行動できる人材育成。大学においては、情報科学演習に加えデータサイエンスの科目を全学部必修にしてはどうか？そのための教員を純増で採用することを期待する。
- ✓ 観光立県の次のリーディング産業にIT産業を位置づける沖縄県の取り組みとして、低額で受講可能なIT人材育成事業夜間校の開校を強くお願いしたい。高校卒業後や社会人のスキルアップ、キャリアアップの場として就職と収入アップに繋がる即戦力人材育成のプログラム・カリキュラムの構築は産官学連携でしか解決できないと考えています。
- ✓ 研究室や担当者とのつながりでアプローチしていただけてだけでなく、将来的には産学官でデータや分析結果を共有し要望に応じて双方向に話をつなげるような仕組みが必要。

令和3年12月27日

**「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」
拠点校・特定分野校の選定について**

数理・データサイエンス・AIはデジタル社会の基本的な素養として、文理を問わず全ての学生にとって、あらゆる分野で活躍するために必要となる知識・技術であり、AI・ビッグデータ・IoT等の急速な技術革新とともに、社会のあらゆる場面でデジタル・トランスフォーメーションが進む中、その必要性は益々高まっています。

今回、全国の国立大学の中から、数理・データサイエンス・AI教育強化を推進する大学を募集し、「大学の数理・データサイエンス教育強化方策推進検討委員会」において各大学の取組に対する評価を実施したうえで、拠点校11大学、特定分野校18大学を選定いたしました。

拠点校においては、数理・データサイエンス・AI教育を全国の大学等に普及することのみならず、国際競争力のある博士課程教育の改革を行い、当該分野を牽引する人材を養成することに取り組んでいただきます。また、特定分野校においては、専門分野に数理・データサイエンス・AIを応用するための教育手法や教材等の普及・展開について積極的に取り組み、様々な専門分野において数理・データサイエンス・AI教育を牽引していただきます。

今回さらに、拠点校、特定分野校の中から、各地域ブロック（全国を9ブロックに分割）の連携・協力等を推進する地域ブロック代表校を選定しております。地域ブロック代表校においては、当該地域ブロックにおける教育の底上げに加えて、地域コミュニティや産業界との連携を積極的に進めていただきます。

なお、今回残念ながら選定されなかった大学においても、その取組内容は各大学の特色を活用した特徴的なものであり、今後更なる教育の充実に向けた取組を期待します。

文部科学省 高等教育局 専門教育課
情報教育推進係

電話番号：03-5253-4111（内線：3308、4750）
E-mail：senmon@mext.go.jp

「数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進」選定大学一覧

【拠点校】

No.	大学名	事業名	地域ブロック 代表校
1	北海道大学	DX時代の社会要請に応える先導的人材養成基盤の形成 ー産学官・地域連携によるデータサイエンス教育とエキスパート人材養成および他大学展開ー	北海道ブロック
2	東北大学	グローバル・産学共創による先端AIMDエキスパート養成	東北ブロック
3	筑波大学	データサイエンス・AIを駆使し地球規模課題を解決できる分野融合型データサイエンス・AIトップ人材育成	ー
4	東京大学	データ駆動型社会を牽引する高度人材育成の強化と全国ネットワーク展開	関東ブロック
5	東京工業大学	データサイエンス・AI大学院全学教育による共創型エキスパート育成とその展開のための拠点形成	ー
6	名古屋大学	地域包括デジタル人材（エキスパートレベル）育成拠点	東海ブロック
7	滋賀大学	「未来社会牽引DS・AIエキスパート人材拠点形成」事業 ～学術研究×人材育成×社会実装の好循環による拠点形成とノウハウの全国展開～	ー
8	京都大学	学際的かつ高度なデータサイエンス人材育成プログラム ーデータサイエンス教育の諸分野研究への展開と持続的発展ー	近畿ブロック
9	大阪大学	数理・データサイエンス・AIエキスパート人材育成	ー
10	広島大学	多様な学問分野と産業界を先導する高度DX人材育成広域拠点の形成	中国ブロック
11	九州大学	多分野におけるAI・データサイエンスエキスパート人材育成のための全学協働事業	九州・沖縄ブロック

【特定分野校】

No.	大学名	事業名	特定分野	地域ブロック 代表校
1	北見工業大学	異分野共創によるデータサイエンス実践教育	理工農学	ー
2	秋田大学	データ駆動型サイエンス教育推進事業	理工農学	ー
3	山形大学	産学官連携による実社会のデータを用いたデータサイエンス教育	理工農学	ー
4	茨城大学	農業と地域の体力強化のためのデータサイエンティスト育成および教育の展開	理工農学	ー
5	宇都宮大学	新学位プログラム及び社会人学び直しを指向した数理・データサイエンス・AIの工学専門教育の全学展開と地域への普及	理工農学	ー
6	東京医科歯科大学	医学・歯学分野における数理・データサイエンス・AI教育の開発	医歯薬学	ー
7	お茶の水女子大学	データサイエンスを駆使する人文系女性リーダーの育成プログラム	人文科学・教育学	ー
8	電気通信大学	実践型UECデータサイエンティスト養成プログラム	理工農学	ー
9	長岡技術科学大学	産学官連携による実践的数理・データサイエンス・AI教育の高度化とeラーニングによる他教育機関への展開	理工農学	ー

No.	大学名	事業名	特定分野	
10	富山大学	地方創生・SDGs 達成を通じた数理・データサイエンス・AI 教育の普及・展開	理工農学	—
11	金沢大学	文理融合データ駆動型観光科学教育によるイノベーション創出の展開と普及	社会科学	北信越ブロック
12	静岡大学	「文理融合型情報学」に基づくデザインブルで課題解決型の数理・データサイエンス・AI 授業手法及び教材の開発	理工農学	—
13	和歌山大学	データ駆動型経済社会を先導するデータ・AI利活用人材の育成	社会科学	—
14	島根大学	材料工学を中心とした地方創生に資する数理・データサイエンス・AI教育の普及・展開 一ものづくり産業を支えるIT人材育成プログラム一	理工農学	—
15	香川大学	「危機管理学×数理・データサイエンス・AI」による応用基礎力教育モデルの展開と普及	理工農学	四国ブロック
16	九州工業大学	北部九州地区における工学応用を展開する専門型数理・データサイエンス・AI教育推進事業	理工農学	—
17	鹿児島大学	地方創生に資する応用基礎レベルのAI・数理データサイエンス教育実施／教材開発事業	理工農学	—
18	琉球大学	島嶼地域社会の自律的・持続的発展に向けた地域共創型数理・データサイエンス・AI教育モデル普及展開事業	社会科学	—

数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進 選定校

選定結果：29校

(拠点校：11校 特定分野校：18校)

赤字は地域ブロック代表校

北海道ブロック (56大学等)

拠点校：北海道大学

特定分野校：北見工業大学(理工農・サイバーセキュリティ推進)

北信越ブロック (83大学等)

特定分野校：金沢大学 (社会科学)

長岡技術科学大学 (理工農)

富山大学 (理工農)

九州・沖縄ブロック (126大学等)

拠点校：九州大学

特定分野校：九州工業大学 (理工農)

鹿児島大学 (理工農)

琉球大学

(社会科学、ダイバーシティ推進)

近畿ブロック (227大学等)

拠点校：京都大学、滋賀大学、大阪大学

特定分野校：和歌山大学 (社会科学)

中国ブロック (82大学等)

拠点校：広島大学

特定分野校：島根大学 (理工農)

四国ブロック 34大学等

特定分野校：香川大学 (理工農)

東海ブロック (116大学等)

拠点校：名古屋大学

特定分野校：静岡大学

(理工農、ダイバーシティ推進)

東北ブロック (84大学等)

拠点校：東北大学

特定分野校：秋田大学(理工農)、山形大学(理工農)

関東ブロック (367大学等)

拠点校：東京大学 (コンソーシアム幹事校)、

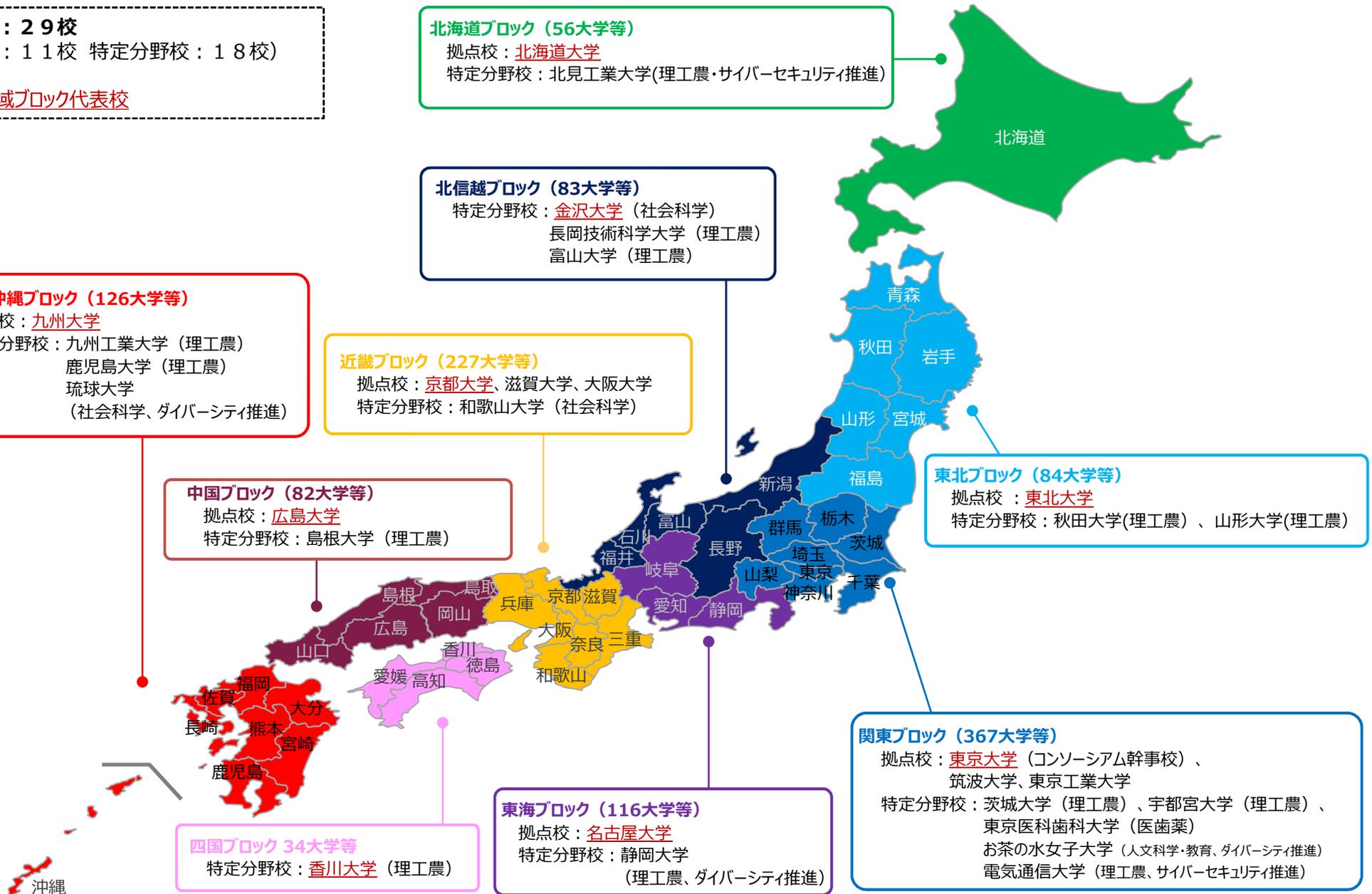
筑波大学、東京工業大学

特定分野校：茨城大学 (理工農)、宇都宮大学 (理工農)、

東京医科歯科大学 (医歯薬)

お茶の水女子大学 (人文科学・教育、ダイバーシティ推進)

電気通信大学 (理工農、サイバーセキュリティ推進)



(括弧内に記載している大学等数は、各地域ブロックに所在する国公立大学・高等専門学校の数)

数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進 主な取組

● 拠点校

全学的にリテラシーレベルや応用基礎レベルの数理・データサイエンス・AI教育を実施し、モデルカリキュラムを踏まえた教材等の開発や社会の実課題・実データの収集・整備等を実施・公開するとともに、他大学等への普及・展開を行う。また、データサイエンスやコンピュータサイエンスを主専攻とする国際競争力のある分野横断型の博士課程教育プログラム等を創設することにより、当該分野を教えることのできるトップ人材を養成するとともに、企業が必要とし、活躍する人材の養成に取り組む。

● 特定分野校

特定分野において、リテラシーレベルや応用基礎レベルの数理・データサイエンス・AI教育を実施し、モデルカリキュラムを踏まえた教材等の開発や、社会の実課題・実データの収集・整備等を実施・公開するとともに、他大学等への普及・展開を行う。

● 地域ブロック代表校

リテラシーレベル、応用基礎レベルの数理・データサイエンス・AI教育について、担当する地域ブロックに所在する大学等への普及・展開活動の取りまとめを行う。また、地元企業や地方公共団体と協働して地域におけるデジタル人材育成を推進する。

● サイバーセキュリティ推進校

自大学において実施している数理・データサイエンス・AI教育のうち、特にサイバーセキュリティ分野の教育強化に資する取組について、他大学等への普及・展開を行う。

● ダイバーシティ推進校

自大学において実施している数理・データサイエンス・AI教育分野における女子学生の参画促進など、ダイバーシティ推進に資する取組について、他大学等への普及・展開を行う。

琉球大学 数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進 概要

事業名称：島嶼地域社会の自律的・持続的発展に向けた地域共創型数理・データサイエンス・AI教育モデル普及展開事業
 事業の概要：**島嶼地域社会特有のグローバル課題解決・新産業創出を社会科学的アプローチから実現**するための実践的な数理・データサイエンス・AI教育モデルを構築し普及展開することで、**島嶼地域社会の自律的・持続的発展に資する人材育成**に繋げる。

<取組内容>

- 島嶼県の特異性がもたらす実践的数理・データサイエンス・AI教育に利用可能なデータを活用し、学部から大学院レベルまでの、**グローバル課題解決・新産業創出**を見据えた**実践的かつ特色ある数理・データサイエンス・AI教育モデルの普及展開**を実施。
- 高度の専門知識、応用能力、課題解決能力を有する人材、地域社会や国際社会で活躍し、その発展に貢献できる**高度専門職業人を育成**。

<これまでの実績>

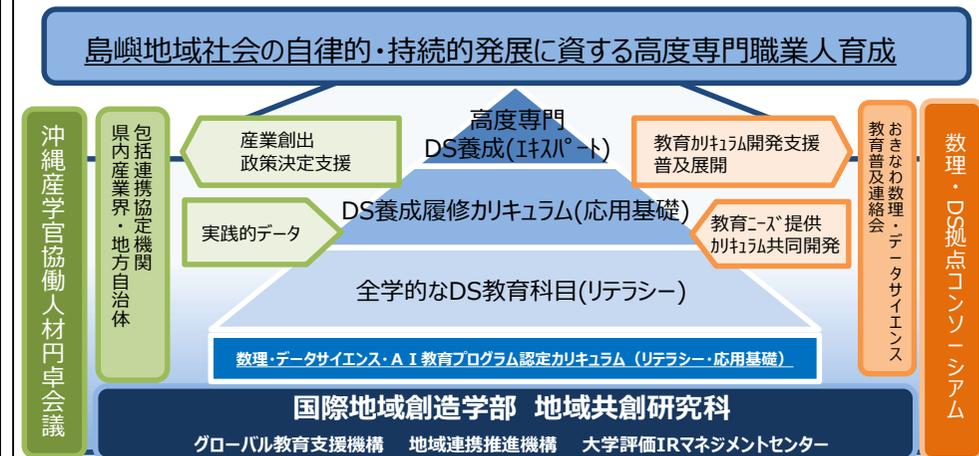
- 本学では、「**琉球大学における数理データサイエンス教育に関する基本方針**」に基づき全学的な数理・データサイエンス教育を実施。**開設科目数182科目**（文系学部34科目、理学系学部57科目、工学系学部33科目、医学系学部6科目、農学系学部52科目）。
- 本学における数理・データサイエンス・AI教育の先導的役割を担う、国際地域創造学部では、「数理データサイエンスを活用した価値創造」につなげるこの出来る人材の養成を目指し、人文社会科学系を含むどの分野の学生でも、データサイエンスをスムーズに学ぶことができるよう、「データサイエンス入門」から「データサイエンスに必要な数学の基礎」、「Pythonによるプログラミング」までを体系的に学修することのできる「**データサイエンティスト養成履修カリキュラム**」を開設（**R3.8 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）認定**）
- **令和4年度から人文社会学研究科と観光学研究科を改組した新たな人文社会科学系研究科として「地域共創研究科」を設置**。持続可能な地域・国際社会の共創に貢献する高度専門職業人の人材育成システム構築に向けた取り組みを推進。
- 県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし「**おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会**」を創設。国公立および高専、大学院大学で構成されており、教育モデルの普及展開の地域の核となる協働体制を有している。

<普及展開>

- 学部～大学院（修士課程）の各段階において求められる数理・データサイエンス・AI教育を体系的に学ぶことができるよう、**島嶼地域社会特有のグローバル課題解決・新産業創出を社会科学的アプローチから実現**するための実践的な数理・データサイエンス・AI教育モデルを産学官連携体制により構築し「**おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会**」と連携した**県内外機関のニーズに合わせた普及展開**を行う。

<実施体制>

- 全国・各ブロックの数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムと連携し、**リテラシーレベル・応用基礎レベルのカリキュラムモデルに対応したカリキュラム構築**
- 沖縄産学官協働人材円卓会議、包括連携協定機関等と連携し、**実践的データを活用したデータ分析によるPBLを実施し、産業創出・政策決定を支援**
- 拠点コンソーシアム、おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会と連携し、**県内外高等教育機関等のニーズを踏まえた教育モデルの開発**



<成果目標値>

- ・メジャー・マイナー学位プログラム開設 1件（令和7年度より）
- ・各種数理データサイエンスAI教育プログラム履修者数 500名（令和9年度までに）
- ・産学官連携による実践型数理・データサイエンス・AI教育プロジェクト数 50件（令和9年度までに）
- ・おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会等を通じた教材開発支援 10件（令和9年度までに）
- ・県内高等教育機関等へのオンデマンドコンテンツ提供 50件（令和9年度までに）
- ・産学官連携によるオープンデータベース構築（令和9年度までに）

自らのミッションに基づき自律的・戦略的な経営を進め、社会変革や地域の課題解決を主導する国立大学へ

- 基盤的な経費の確保により、**全ての国立大学に共通する**高等教育の機会均等の確保や基盤的な研究活動の実施という**ミッションを着実に実施**
- 各国立大学が担う**特有のミッション実現のために必要な取組を推進**するとともに、**社会的なインパクトの創出に向けた戦略的な強化を後押し**
- 国立大学の**活動全体の実績・成果等について共通指標により客観的に評価**を行うことで、一層の**経営改革を推進**

ミッション実現・加速化に向けた支援

ミッション実現戦略分 **202億円 (新規)** 教育研究組織の改革に対する支援 **83億円 (新規)**

- 各大学が社会的なインパクトを創出するために効果的な取組を分析し、戦略的な強化に取り組むことを後押し
- 地方創生、Society5.0、SDGs等への貢献を通じた各大学のミッション実現を加速するための組織設置や体制構築といった活動基盤の形成を強力に推進

教育研究基盤設備の整備 **70億円 (+31億円)** 【令和3年度補正予算額 **98億円**】

- ポスト・コロナや防災・減災、国土強靱化、グリーン社会の実現、デジタル化の加速に資する設備等、教育研究等に係る基盤的な設備等の整備を支援

我が国の次世代を担う人材養成

数理・データサイエンス・AI教育の推進

12億円 (+2億円)

- 数理・データサイエンス・AI教育の全国展開を加速するとともに、産学において教えることのできるトップ人材を養成

多様な学生に対する支援の充実

153億円

- 大学院生に対する授業料免除の充実 **150億円 (+24億円)**
- 障害のある学生に対する支援 **3億円 (新規)**

大学の枠を越えた知の結集による研究力向上

【令和3年度補正予算額 **101億円**】

共同利用・共同研究拠点の強化

46億円 (+7億円)

- 研究組織改革と一体として、国内外の研究ネットワークを強化し、異分野融合、新分野の創成等を促進

世界の学術フロンティアを先導する

大規模プロジェクトの推進 209億円 (+3億円)

- 人類未踏の研究課題に挑み、世界の学術研究を先導するとともに、最先端の学術研究基盤の整備を推進

※このほか、先端研究推進費補助金等128億円 (+3億円)

※このほか、新型コロナウイルス感染症への対応についても支援

改革インセンティブの向上

成果を中心とする実績状況に基づく配分

- 各大学の行動変容や経営改善に向けた努力を促すとともに、国立大学への公費投入・配分の適切さを示すため、教育研究活動の実績、成果等を客観的に評価しその結果に基づく配分を実施

配分対象経費	配分率
1,000億円	75%~125% ※指定国立大学は70%~130%

- 公正な競争環境を整備するため、規模や組織体制の観点から新たにグループ分け
- より実効性のある仕組みとするため、配分指標を見直し

<見直しの例>

- アウトカム重視の指標への見直しとともに、博士課程をはじめ大学教育改革に向けた取組の実施状況に関する指標を追加
- 大学の改革努力を的確に反映するため、研究に関する指標を中心に、新たに伸び率を加味

国立大学の経営改革構想を支援

国立大学経営改革促進事業

50億円 (+2億円)

※国立大学改革・研究基盤強化推進補助金(仮称)

- ミッションを踏まえた強み・特色ある教育研究活動を通じて、先導的な経営改革に取り組む“地域や特定分野の中核となる大学”や“トップレベルの教育研究を目指す大学”を支援

● 背景・課題

- デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要
- AI戦略2019の育成目標（2025年度）
 - ①リテラシー：約50万人/年（全ての大学・高専生）
 - ②応用基礎：約25万人/年
 - ③エキスパート：約2,000人/年
 - ④トップ：100人程度/年

各大学等が数理・データサイエンス・AI教育を実施するために、以下の施策を展開

○ デジタルと掛けるダブルメジャー大学院教育構築事業（令和4年度予算額（案）5億円）

- データサイエンス・コンピュータサイエンス分野のマイナー・ダブル学位プログラム等を設定し、人文社会系分野において、データサイエンス・コンピュータサイエンスの素養を持った人材を育成

○ 数理・データサイエンス・AI教育の全国展開の推進（令和4年度予算額（案）12億円）※国立大学法人運営費交付金の内数

- リテラシーレベル・応用基礎レベルのモデルカリキュラムや各大学等の成果を全国へ普及・展開させるためのコンソーシアム活動等を実施
- 産学において数理・データサイエンス・AI教育を教えることのできるトップ人材の養成等（国際競争力のある分野横断型のPh.D.プログラムの創設など）

○ 私立大学等における数理・データサイエンス・AI教育の充実（令和4年度予算額（案）7億円）※私立大学等経常費補助金の内数

- モデルカリキュラムの策定や教材等を開発し、社会における具体的実課題や実データを活用した実践的教育等、先進的な取組を実施する私立大学等を支援
- 教育連携ネットワークを形成し、ワークショップやFD活動等を通じ、私立大学等への普及・展開を図る私立大学等を支援